

## 参考様式

令和5年度みどりの食料システム戦略推進交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

# 産地戦略

事業実施主体名： 大麦大国

都道府県名： 鹿児島県 対象品目： 大麦若葉・甘藷

策定年月： 令和6年3月11日 目標年次： 令和9年

※事業実施計画における目標年度の翌年度から5年目とする。

### 環境負荷軽減の取組

化学農薬の使用量低減	○	化学肥料の使用量低減	有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減 (水田からのメタンの発生抑制)
温室効果ガスの削減 (バイオ炭の利用)		温室効果ガスの削減 (石油由来資材からの転換)	温室効果ガスの削減 (プラスチック被覆肥料対策)	温室効果ガスの削減 (CO2、N2Oの排出削減)

※ 複数の栽培体系を検討した場合は、栽培体系ごとに産地戦略を策定すること。

## 第1 事業実施地域の現状と目指すべき姿

### 1 事業実施地域

鹿児島県日置市

※事業実施計画書第1の4の事業実施地域を記載。

### 2 事業実施地域の現状

農業を取り巻く情勢は、資材の高騰や労働力確保難、それに加えて大きな世界情勢の変化に伴い様々なものの値上がりの反動を受け、先の見通しのたたない厳しい情勢下に置かれている。  
令和元年度から、基腐病の発生により甘藷の生産量も減少していることが認められていることから、甘藷生産農業者の経営も不安定化となっている状況である。

※1の事業実施地域の現状について、実施しようとしている環境負荷軽減の取組の実施状況等、課題と認識している点について具体的に記載。

### 3 事業実施地域を目指すべき姿

輪作作物でもある麦を大麦若葉として耕作し、そのあとに甘藷の二毛作体系をとり、少しでも生産性の向上が出来るよう日々活動している。今回事業を活用して、ペレット堆肥と有機質資材の液肥を用いることで、微生物や細菌、糸状菌を増加させ植物生理の活性機能の向上を図り、肥料の吸収率の向上と光合成の活性化による化学肥料の減少を図れるように考えている。また、本取組は、化成肥料の1年のみの効果ではなく、継続的な土壌強化により、輪作作物としての機能だけでなく、大麦若葉としての特産作物の発掘により、契約栽培の有利取引が可能となるため、経営の安定化を継続的に図ることが出来る。

今回、本事業を活用することは、麦と甘藷の二毛作体系による新たな生産体制の確立のモデル体系としての地域活性化、持続可能な環境と調和した栽培体系の確立することが本地域においても必要不可欠である

※事業実施地域内へのグリーンな栽培体系の普及により、2に記載した課題がどう改善され、どのような姿になるのかを具体的に記載。

第2 グリーンな栽培体系の普及に向けた取組

1 今後普及すべきグリーンな栽培体系

ア 取り入れる技術

	取り入れる技術	期待される効果
環境にやさしい栽培技術	ペレット堆肥と液肥を用いて、植物生理活性機能の向上、光合成細菌の増加、根量の増加による肥料の吸収性の向上により化学肥料の低減を図る。	施肥効率の向上による化学肥料の低減1/2減以上

2 新たな栽培体系の普及に向けた目標

ア 環境負荷軽減の目標

指標		年度	R5 (現状値)	R9 (目標値)	増減率 (%)	備考
1	大麦若葉 化学肥料の減少		20	40	150%	
	単位	ha				
2	甘藷 化学肥料の減少		30	45	150%	
	単位	ha				
3						